

政務活動報告書

1. 政務活動名 「陸上におけるサケマス魚類養殖の視察研修」

11月16日（木）～11月17日（金）

視察先 福島県西白河郡西郷村 株式会社 林養魚場

2. 政務活動内容

○福島県西郷村

株式会社林養魚場の本場所在地である西郷村は、福島県と栃木県の那須東麓に位置し、東は「白河の関」で有名な白河市、北は「鳥羽高原湖高原」の岩瀬郡天永村、西は「大内宿」の南会津郡下郷町、南は「那須高原」御用邸を擁する栃木県那須郡那須町と接する。

当該養殖施設も利用している阿武隈川が西郷村の東西を貫流している。



○西郷村本場での施設概要・養殖魚の説明（代表取締役 林総一郎氏）

林養魚場は1935年に西郷村において、産声をあげた国内でも最古参の養魚場でサケマス魚類の養殖一筋に長年にわたり、日々研究と開発、新しい技術の導入など、常に品質の良い養魚の養殖に徹底して來た。

現在は魚種約10種類の養殖魚、年間生産量約400トンにおよび、国内でも最大規模の養殖面積を誇る内水面サケマス養魚場で、常に研究と開発、実績と経験により、品質の追求を行い、自然と人間の関わりに重点を置き、人と魚の新たな関係性を提供しているところである。

○卵から親まで一環した養殖

ここ本場では国内でも最大規模の面積（約5万平方メートル）養殖施設において、卵から新魚まで一環したサイクルで、年間約500万匹のサケマス魚類を養殖しており、手塩にかけて育てられた魚は顧客から高い評価を得ている。



○阿武隈川メイプルサーモンとは

その名のとおり阿武隈川の恵みを受けて養殖したニジマスである。

カナダのカムループス地方原産のニジマスを、選抜育種を繰り返してきたニジマスと交配を繰り返し、品種改良・養殖方法・飼料の品質を探求し、良質な身質を作り上げている。



また、阿武隈川メイプルサーモンの養殖場は那須高原の裾野に位置する養殖場であり、阿武隈川上流部より直接引き込んだ清涼な水の中で育ったサーモンは臭みがなく、豊富な水源の恩恵を受け、自然環境に近い強い水流で育てているために身が締まり、環境変化に強い健康なサーモンに育つとのことである。

○円形の水槽の特徴

円形にすることによって取水口からの水が壁に当たって自然環境に近い水流が生まれ、その水流に魚が逆らって泳ぐことで魚の身が締り、筋力が着くことによって美味しい魚が育つ。



○資材機器販売とコンサルティング

水産養殖機器から発眼卵まで長年培ってきた実績と経験、そこから得た国内外のネットワークを生かし、現場が一番必要としいる物、本当にいい物を提供し、養魚場の設計からコンサルティングまで、水と魚に関するノウハウを提供している。

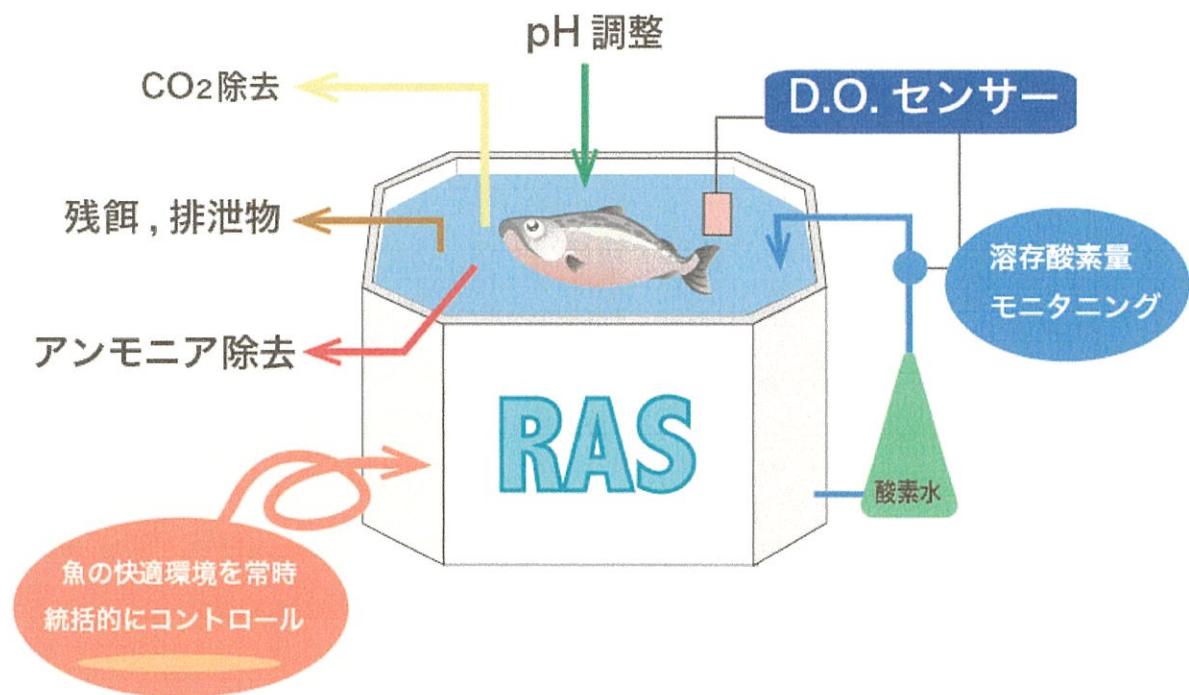
近年では函館市・木古内町・八雲町熊石に幼魚を提供しているとのことである。



○次世代型養殖システム HTF-RASについて

林養魚場循環濾過養殖システム(HTF-RAS)は、飼育層に注入した水を循環濾過して繰り返し使用する事で、これまでの流水式養殖方法と比較し、ごく少ない注水量で養殖が可能となる。

また、HTF-RASは魚の粪や餌の食べかすをほぼ100%回収出来るため、水質悪化のリスクも無く、環境への負担が限りなく少ないことも特徴となっている。



3. 政務活動成果

○ 上ノ国町漁業の現状と今後の漁業について

近年日本海ではイカ・スケソウダラの不漁、猛暑による海水温の上昇に影響を受けたと思われるバフンウニの死滅やサケの捕獲高の減少と、自然環境に左右される漁業が中心となっているのが現実である。

そこで今回、自社施設で採卵から出荷までを一貫生産する養殖場林養魚場を視察先として選定した次第である。

生産経路は明確で、完全管理が可能な養殖施設内で行っているため寄生虫などの心配もなく、自然災害や気候変化に強い室内養殖場や、自然環境に近い水流を再現した養殖場など、すべて人の手による完全管理が可能な施設であることから、これからの中ノ国の漁業も自然に左右されない陸上養殖を目指して行くべきと考える。

